

荒れた山林・空き家でふるさと創り

開拓者精神を発揮して進む

児童養護施設の子どもたちと里山を開拓する。

そう聞くと、善意の手を差し伸べる支援活動のように思う人が多いだろう。だが、違う。開拓者精神で事に当たれば、自立心が育ち、社会的課題にも立ち向かえる。そうした場をつくること——それが堀崎さんの使命なのだ。

NPO 法人東京里山開拓団代表

堀崎 茂

●ほりさき・しげる 1971年愛知県生まれ。山林地主。2児の父。開拓団の活動は、環境大臣&厚生労働省からの表彰、環境白書への掲載のほか、メディアでの紹介も多い。

東京里山開拓団は、虐待や貧困などで親から離れて暮らす児童養護施設の子どもたちとともに、荒れた山林や空き家を再生して自らふるさとを創り上げるボランティア活動を十五年前から推進しています。

荒れた山林については、何十年も人の入らなかつた東京・八王子近郊の山林に通い続けています。そこでは、自分たちの手で自然の恵みを活用しながら道や広場、設備を作り上げます。ツリーハウスやジップライン、ブランコ、石かまどなどもあります。子どもたちの歓声が里山にあふれるようになり、絶滅危惧種の鳥

ミヅゴイも訪れる里山として再生しました。

また、里山のふもとでゴミ屋敷となって朽ちかけていた築三百年の古民家もDIYで再生し、児童養護施設のふるさとの家「さごろりん」として運営しています。目の前に里山や小川があり、縁側や囲炉裏、薪ストーブもあって、里山ライフが実践できます。

さらに世田谷区と豊島区の空き家を志ある皆さんから期間限定・無料提供していただいてDIY再生し、施設退所者の自立応援の家「まごろりん」を二〇二四年四月にオープンしました。

親からの支援や公的な支援が十分でない児童養護施設退所者の自立を五年間家賃無料などで総合的に民間で応援しようという新しい試みです。

可哀想なのは大人たち

私たちの活動は一見他にもある居場所づくり、自立支援、里山保全のボランティアに見えるかもしれませんが、でも私たちは可哀想な子どもたちを支援しようというスタンスはとっています。支援漬けは自立を遠ざけてしまうと考えているからです。

ここでは、本人自ら開拓者精神を発揮し、埋もれていた山林や空き家を活用して、願ってもかなわなかつた理想のふるさとを一緒に創り出そうとしているのです。イメージでいえば、テレビの『DASH村』や『北の国から』を地で行く感じですよ。

もっというなら、子どもたちこそが、山林や空き家を放置するばかりの可哀想な大人たちの社会課題を克服しようとして喜んで参加してくれているのです。

私たちの試みは、少しずつ注目していただけるようになってきました。私たちは活動推進にあたって、開

拓者精神の発揮を重視しています。ふだんの私たちの社会では、なんでもお金を払ってプロにやってもらうのが当たり前で、それが最もいいやり方と考えがちです。

でも開拓者精神の発揮はそれとは真逆のやり方です。それは現状をよく観察し、埋もれた資源や仲間とのつながりを生かして、自ら失敗を恐れずに試行錯誤して、困難さえ楽しみながら乗り越えようとする生き方でもあります。

どうすればそれが身に付くのか具体的に教えてという人は、その時点で失格です。開拓者精神はもうすでに自らの心の中にあるのですから。それが眠っているなら自らたたき起こして、自らの暮らしや社会をよくするために発揮させるだけです。

ここには正解などなく、試行錯誤の連続です。手間も時間もかかります。しかし、そうしてつかみ取ったものは本物です。誰か「プロ」にやってもらったものとは全く違います。

なぜなら、自らの力でできたという自信、たくさん仲間とのつながりや思い出もセットになって出来上がってくるからです。だからこそ、一緒に開拓者精神